

あ い の

【花簪（はなかんざし） 花言葉 おもいやり】

Vol.14

2013. 1月発行

院長挨拶

明けましておめでとうございます。院長に就任して早や1年が過ぎました。医療の原点である『親切』を心に刻んで、職員一同『より良い病院』を目指して邁進する所存です。本年もよろしくお願い申し上げます。

院長 杉野 正一

Contents

院長挨拶

リウマチ・膠原病外来

ダイバージョナルセラピー

検査科のリニューアル

講座・セミナー

2012年11月1日付で、藍野病院の常勤医となりました
永井孝治です。リウマチ・膠原病外来を担当しております。

『リウマチ』という言葉はお耳にしたことがあるかと思いますが、『膠原病』に関してはほとんど聞いたことがないのではないのでしょうか？



内科医長 永井孝治

膠原病（こうげんびょう）とは

膠原病について尋ねると、「よくわからないけど、治療の方法がない難病で、すごいんでしょう。」という言葉が返ってきます。
今回、新たに『リウマチ・膠原病外来』をスタートさせて頂くにあたって、おおまかにですが『膠原病』についてお話をさせていただきます。

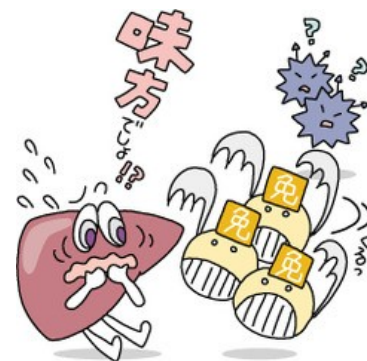
『膠原病』とは、疾患分類で言えば『自己免疫疾患』に属します。
自己免疫疾患とは、文字通り『自分の免疫の病気』です。
免疫は細菌やウイルスなどの外敵から、身体を守る自己防衛軍（白血球や抗体など）です。

通常であればその軍隊は外敵のみを攻撃するのですが、『膠原病』つまり自己免疫疾患の患者さんは、**自分自身の臓器を攻撃してしまいます。**

- ・肝臓を攻撃すれば自己免疫性肝炎（右図）
- ・甲状腺を攻撃すればBasedow氏病
- ・全身の関節を攻撃すれば関節リウマチ

といった訳です。

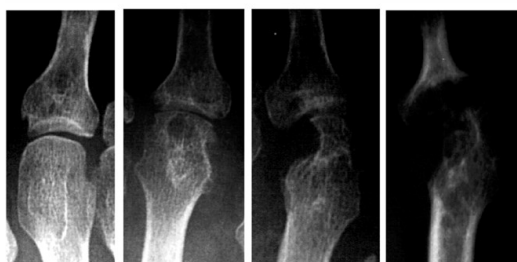
治療は軍隊削減、つまりステロイドを中心とした免疫抑制療法になりますが、副作用も多数存在する薬剤を使用しますので、慎重に行う必要があります。



図：自己免疫性肝炎
(Doshin web:北海道新聞より)

関節リウマチとは

『膠原病』の中でも、今一番の話題の中心となっているのが『**関節リウマチ**』です。
日本では60-70万人の患者さんがおられると言われ、150-200人に1人ぐらいの割合です。
40-50代の働き盛りの女性に多いと言われていますが、どのような方でも発症する可能性があります。
リウマチを無治療で放置しておくと、徐々に全身の関節が破壊されていき、最終的には寝たきりになってしまいます。



悪くなる

手指関節の破壊（レントゲン写真）

関節リウマチはこれまで、このように将来において非常に不安がある疾患でした。

しかし、1999年に※メソトレキセート、2003年からは多数の生物学的製剤が使用できるようになり、**現在では関節破壊を防ぐことが可能となりました。**

そのような治療革命の時代に突入し、当科においても早期診断・早期治療により患者様の関節を守り、ADLを維持することで患者様のQOLを高め、そして最終的には生命予後をも改善させる、ということを目指して治療を行っていきます。

早期発見のためには、まず関節リウマチを疑うことが必要となります。

1週間以上持続する関節痛や関節腫脹、朝のこわばりなどを認めた場合は、一度当外来に御相談頂ければと存じます。宜しくお願い致します。

※メソトレキセート・・・細胞内でDNAとRNAの合成を助ける酵素の働きを妨げて、がん細胞の増殖を抑える葉酸代謝拮抗剤です。さまざまながんに使われる代表的な抗がん剤で、大量化学療法でも使用されます。

ダイバーショナルセラピー No.10 ～タクティールケア①～

認知症治療の中で非薬物療法や緩和ケアとして導入されている「タクティールケア」を福田看護師長より2回にわたって、紹介させていただきます。

＊タクティールケアとは＊

1960年代にスウェーデンで生まれたケアで、もともとは未成熟児への看護から始まった「タッチ」の方法です。語源はラテン語の『タクティリス (tactilis) : 触れる』という意味で、指圧や筋肉に働きかけるマッサージではなく『ただ優しく触れる』肯定的接触です。

オキシトシン（脳下垂体後葉ホルモンの一種）というホルモンが分泌されることにより穏やかさと安心感をもたらし、心配や不安の軽減・痛みの軽減・QOLの向上・介護者との関係改善・認められているという安心感等、医療や福祉の現場で良い効果をもたらしているという報告が数多くあり、当院でも実際に「気持ちいいね」「眠くなった」との反応の声を聞き効果を実感しています。

＊非薬物療法と実践＊

認知症の治療の中で、症状によっては薬物療法が必要になることがあります。しかし、非薬物療法を駆使することで、薬物療法を利用したとしても薬の使用期間を短期化、薬の少量化等を常に考えて実践していくことが求められます。



前回にも紹介しましたダイバーショナルセラピーや園芸療法とともにタクティールケアを取り入れ、入院生活の中でもその人らしく過ごしていただく様にさまざまなケアの選択肢が出来る環境である事が重要だと考えています。

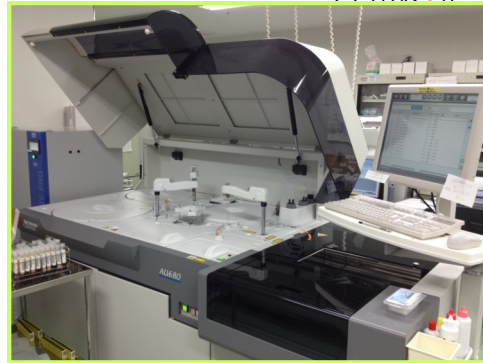
なお、当院ではタクティールケアをより深く実践していこうと認定取得者の増加に取り組んでいます。



検査科のリニューアル

2012年11月5日(月)より、最新の検体検査機器を新規導入し、検体検査全般の管理・運営並びに院内検査に用いる検査機器及び試薬管理が可能となり、より精度の高い検査が迅速に実施できるようになりました。

＝検査室の様子＝



＝ 講座・セミナー ＝

1月17日(木) 高槻市医師会学術講演会 (14:00 - 16:00)

場所: 高槻市立総合保健福祉センター 対象者: 医療関係者
『今さら、人に聞けない認知症診療』 講師: 杉野 正一 院長

1月18日(金) Expert Meeting ～糖尿病と認知症～ (19:00 - 21:00)

場所: アンシェルデ・マリアージュ(高槻) 3F プリエール 対象者: 医療関係者
『認知症を伴う糖尿病患者のマネージメント』
座長: 杉野 正一 院長 講師: 吉田 麻美 内科副部長(栄養管理部長)

1月26日(土) 茨木市医療連携懇話会 (15:00 -)

場所: ホテルグランヴィア大阪 対象者: 茨木市医療関係者
『認知機能検査がデバイスの工夫に有用であった高齢2型糖尿病の一例』
講師: 山本 直宗 内科医長(中央診療部長) 三木 清絵 薬剤師 他

1月31日(木) 第7回大阪神経・精神疾患シンポジウム (19:00 - 21:00)

場所: ホテルグランヴィア大阪 20F 『桐』
対象者: 医師(出席希望者はあらかじめ登録必要)
『脳卒中後のうつとアパシー』
座長: 杉野 正一 院長 講師: 日本医科大学千葉北総病院 メンタルヘルス科部長 木村 真人 先生

2月15日(金) Senri AD Meeting (19:30 - 21:00)

場所: 千里ライフサイエンスセンター 603 対象者: 医療関係者
パネルディスカッション: 『ガラタミンの位置づけを考える』
パネリスト 園田 薫 老年心身医療センター副センター長 等



お問い合わせ

総合受付

TEL: 072-627-7611 (代)

FAX: 072-627-3627

**入院のご相談は
「地域医療連携室」まで**

季刊誌「あいの」を最後までご覧いただき、ありがとうございます。

形成外科外来、骨粗鬆症外来に続き、今回はリウマチ・膠原病外来を特集させていただきます。

リウマチ・膠原病外来は毎週火曜日の午後におこなっております。(予約制)

その他に永井医師は、毎週金曜日の午前中に内科の診察も担当されています。

気になる症状をお持ちの方は、どうぞ診察にお越しください。

今後、皆さまの役立つ情報をお伝えしたいと考えておりますのでご意見・ご感想・ご要望などございましたら、お気軽にお問い合わせください。

お待ちしております。

編集委員一同

編集後記